

環境クラブが与那覇湾でマングローブ観察会

2012/06/16 21 時 03 分配信 - 社会・一般 -

宮古島環境クラブ（下地邦輝会長）のマングローブ及びサガリバナ観察会が16日、下地与那覇湾などで行われた。マングローブに生えるヒルギ類などの植物を間近で見ながら、特徴や性質、ガイドのポイントなどを学んでいた。



ヒルギダマシなどの特徴を間近で学ぶ参加者たち＝与那覇サニツ浜東海岸

マングローブの観察会は与那覇サニツ浜東海岸で行われ、下地会長がこの海域に自生するヤエヤマヒルギ、オヒルギ、メヒルギ、ヒルギダマシについて説明。このうち宮古島が分布北限のヒルギダマシに関しては「繁殖力が強く『マングローブの雑草』とも呼ばれているが、栄養価が高く様々なものに役立てられている。針のような根は酸欠状態の干潟で呼吸し、光合成もしている」と話し、潮の引いた干潟で実物を見ながら参加者に教えた。

観察後はオヒルギの苗作りを行った。夜は平良添道でサガリバナの開花などを観察した。

マングローブの生態学ぶ／宮古島環境クラブ

自然と環境のワークショップ



参加者たちは生息するマングローブの特徴などについて学んだ＝16日、与那覇サニツ浜東海岸宮古島環境クラブ(下地邦輝会長)の「自然と環境のワークショップ」が16日、与那覇サニツ浜東海岸と添道で行われた。

同海岸では、周囲に生息するマングローブの見分け方やそれぞれの生態などについて下地会長が紹介した。

あいさつで下地会長は「与那覇湾はラムサール条約への登録が予定されているので、今回のワークショップは内容の濃いものにしたい。生息するマングローブ4種の見分け方について実際に触れて学んでほしい。また、同湾の自然を守るための意見も出してほしい」と述べた。

ワークショップでは、マングローブと総称されるメヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシの4種類の特徴について紹介。

下地会長は4種のうちヒルギダマシについて、生息地は宮古島が北限で、葉の裏から塩分を排出することなどを説明した。

参加者たちは、マングローブの生態や特徴の説明に真剣な表情で聞き入っていた。